



岐阜市は斎藤道三や織田信長など名高い戦国武将が活躍した舞台です。道三・信長は何故岐阜市を選んだのでしょうか？英雄たちが欲しがった岐阜！その歴史を作ってきた武将や武士団、彼らの知られざる活躍を一緒にひも解いていきましょう。

身近なところにある歴史が、新たな気付きにつながるかもしれません。

一柳氏は伊予国愛媛県守護河野氏の一族で、大永年間（1521～1528年）に岐阜市西野にやってきて土岐氏に仕え、一柳と名乗ります（『寛政重修諸家譜』以下『諸家譜』）。今回は羽柴（豊臣）秀吉が出した同時代の史料を集めた『豊臣秀吉文書集』（以下『文書集』）や『一柳家記』（1641年作成、以下『家記』）などから、近世大名家の基礎を築いた直末・直盛兄弟の活躍を見ていきます（図1）。

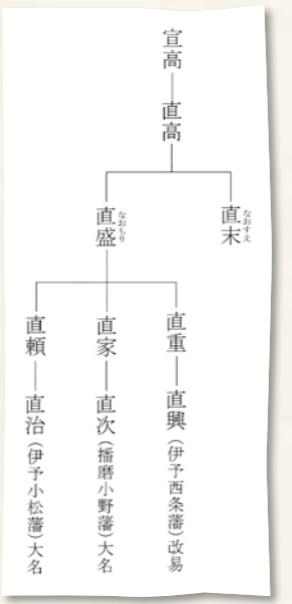


図1 一柳氏系図

## 1 一柳直末

直末は1546年岐阜市西野の生まれで、1570年に秀吉に仕えます（『諸家譜』）。1572～3年の小谷城攻めの手柄により、秀吉の黄母衣衆の一人に選ばれ、感状と250貫の知行が与えられます（『家記』）。

1584年に秀吉と徳川家康が直接戦った小牧・長久手の戦いのうち、4月9日の長久手の戦いで

秀吉軍が大敗した直後には戦死した。若輩者なので直末が精を入れて申し付けよ」と命じています（『文書集』）。

1585年9月4日、秀吉は大垣城将・直轄領代官の役職を加藤光泰から直末に交替します。その後大垣城を拠点に兵糧米の準備や

蔵の建設などを急いでいる（『文書集』）ことからみて、この事件は家康との再度の戦争を想定し、兵站基地として大垣城を活用するため

秀吉軍が大敗した直後には戦死した。若輩者なので直末が精を入れて申し付けよ」と命じています（『文書集』）。

1585年から1589年にかけて、直末は、大坂城・聚楽第・東山大仏（方広寺）建設にも関わっています（『文書集』）。材木運搬に関わる文書が多数みられ、大垣城周辺が水運と陸運の中継地点であります。

このように秀吉政権の中で重要な役割を果たしていた直末ですが、1590年3月29日、小田原の役の際、山中城の戦いにおいて戦死してしまいます。直末が戦死した

の措置とみられます。

1586年2月に秀吉と家康が和睦すると、4月には家康に嫁ぐ秀吉妹旭姫一行の、10月には人質として家康の元に下向する秀吉母大政所一行の宿泊所として大垣城が指定され、直末は無事大役をつとめます（『文書集』）。

1585年から1589年にかけて、直末は、大坂城・聚楽第・東山大仏（方広寺）建設にも関わっています（『文書集』）。材木運搬に関わる文書が多数みられ、大垣城周辺が水運と陸運の中継地点であります。

このように秀吉政権の中で重要な役割を果たしていた直末ですが、1590年3月29日、小田原の役の際、山中城の戦いにおいて戦死してしまいます。直末が戦死した

# 一柳氏と岐阜



岐阜市ぎふ魅力づくり推進部  
文化財保護課

特任研究員 内堀 信雄

**プロフィール**  
昭和34年 栃木県宇都宮市に生まれる  
昭和61年 名古屋大学大学院文学研究科  
(考古学)卒業  
岐阜市教育委員会にて信長公居館跡発掘調査などを担当。

**主な著書**  
『東海の名城を歩く 岐阜編』  
(共編、吉川弘文館、令和元年)  
『戦国美濃の城と都市』(高志書院、令和3年)

## 2 一柳直盛

直末弟の直盛は、1564年兄と同じく厚見郡の生まれです（『諸家譜』）。1583年の賤ヶ岳合戦では先駆け衆の一人として活躍しますが、陪臣であるため感状が出ませんでした（『家記』）。1590年小田原の役で兄直末が亡くなつた後、尾張国黒田城主となります（『諸家譜』）。1592年に始まる朝鮮出兵の際には、秀吉の命で軍船「大安宅船」を作っています（『文書集』）。また、1594年に木曽川堤防普請を行っています（『文書集』）。

1600年8月22日、関ヶ原合戦前哨戦では木曽川を一番に渡り、米野の合戦でも手柄をたてます（『家記』）。翌8月23日の岐阜城攻めの際の瑞龍寺山砦攻略にも功績がありました（『家記』）。その後、9月上旬には石田三成のいた大垣城の押さえとして長松城（大垣市）の城番を務めます（『家記』）。その後、1601年、関ヶ原合戦の手柄

により伊勢国神戸城主（三重県鈴鹿市）となり、さらに1636年には伊予国西条6万8千600石を与えられます（『家記』）。直盛没後、播磨小野（兵庫県小野市）と伊予小松（愛媛県西条市）の2系統が近世大名家として幕末まで続きます。

## 3 岐阜県内に残る一柳兄弟の遺産

江戸時代に書かれた『濃陽志略』には、岐阜市西野町の本願寺岐阜別院は一柳直盛の館跡と記されています。この一帯は周囲よりも高い地形であり、過去の試掘調査では16世紀頃とみられる遺物が確認されています（写真1）。大垣城

は一柳直末が城将を務めた城ですが、太鼓門付近の発掘調査で戦国時代の軒瓦やお堀が見つかっており、それに伴う土層には火災の痕跡がありました。私はここに直末が大垣城将だった時代の門や堀が震で被災したのだろうと考えています。1600年8月22日の米野の合戦の現地には標柱や説明板（写真2）、一柳直盛家臣大塚権大夫

の墓伝承地などがあります。また8月23日の瑞龍寺山の戦いの砦跡も金華山ドライブウェー沿いに残されています。

\* 次回は12月号です。お楽しみに



写真1 本願寺岐阜別院（西から、井川千代子撮影）



写真2 米野の戦い標柱・説明板